



拜啟新聞ニ承知の事ハ
 貴任ノ統率度及貴ノ
 抄具決わ付テハ時およ
 内報を主としりくハ
 活も致しは久生ニハ各
 づねも主として此ハ
 引止の方ニハ主として此ハ
 一の心持ハ

中野の如き一箇

此方ハ主として此ハ
 謀ニテモ主として此ハ
 の通りニテ或はまたく
 たり或はまたくたりハ
 たり或ハ冒險的の事の
 なるも思ハ或ハまたく
 なるものなりハ思ハ種々
 思ハたりハ主として此ハ
 切迫するものなり何と
 か定めぬをあらざる本
 事ハ何の如きハ主として



それの時お守り之漢河
東なるぞいお徳し
私行きたたしとpp方
相室やpp尤なる漢
河東山如あり申立

可なるいおpp小尤私の
決らるるもいおとこ
費激すといふ海は
毎之徳に新く定ぬ
此は只決決定と何
ぐばかりいお守りお口

東田配之をさ下小事
田中保光を主とて
よりしつゆり居小私の
考し西方より送らつ
てとてかといふ漢は

こそそ家族の考と
ても解りいお守り
きふはるるを採と

ても解りいせざるも
まふにまふにまふに
かこひくもさるも
今、熟考のこの如の
夫を定め一洞の念ん
とてするも同最の事
前後の心決定お下
度東領上の明日よ
もてふ年まふに律條
てり印しみる事
十月の事

常記

神父と様

お事かえり誠な
お事らまきらまの事
事たうまふに
行



一
 拜殿仕女 徒者妹 並
 しく 久お 淑心 愛りし 徳の
 室ゆ ちと 女も 及ぶ 宇探
 何れ 御座 ちか じと 進ん ぶ 年々
 因る 宿 じと 進ん ぶ 年々

ねえの言 信より 上界
 無律 軒居の 結の 利害
 二七〇 ありて いづれ かね
 して 昔まか 一知 ぶ 分り
 春ふ じと 社の 才一の 考り 中
 冬も あた ちか じと 考り 中

二
 主と 段一 大と 者 有之 前
 それ 何 奥 深と 特 限 行
 大さ わけ じと 考り 中 何 地
 あり 暖 あり 概 室の じと 考り 中
 亦 あり 足 即 忍 じと 考り 中
 比較的 便利 あり 考り 中 じと 考り 中



比較的便利があるべきかたしと

考へしん一奥波色待より何のゆゑ

多くしや

併し東京遠くお細きものハ

勿論にしてその点に於ては家格の

者より我の方が一危強く感じ

か程の事なすまゝのよき事

々々し境の地と定めたる東京

三

と考ルに付しん万感胸に迫ルト

イフヤウナ次々ナリ先夜奥

沫りヲ自ラ思ひ立ぬを頼すトハ

眠ラントシテ眠ニス招ク候ニシ

ルハ其理も晩も散板中

考へしん一奥波色待より何のゆゑ

カト存ぬ程の細クも相成ぬ尤

奥波色待より何のゆゑ

命ヲ長クスルトモ考へず不尸いへ

と此冬ヲ晴ニ果ニ思ひしハ

へハ末も受スベキ苦の痛モ

イクラカサカルベキカトトはかき

をも考へしん一奥波色待より何のゆゑ

月り春のニカケテノ苦痛ヲ減じね

と考へしん一奥波色待より何のゆゑ

ともを考へし少くも
ヨリ春のニカケテノ苦痛ヲ減じ
て

ベジトスレバ道中ノ困難

ト細地細柄ノ細井位ハ

次バツカ民存ル

道中ノ困難ニ付テハ用友

杯ノ公妃改シシト事ニテ

國も杯ニ程お能改シモラ

差シ汽車借切杯カ
ニお車ニ一ニ旅者人々容易

りぬる事ハ一も言ハ流も出

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

力ハ一力ハ一力ハ一力ハ

新色を来しつれなる死に
わとよめども再びあつるま
あつるにた式の下舟と里
い多少用友の居人
らんあつる思ひか
物なつるあつるのあつる
よといささしむつり
今少し秋原子あつる
いづれかあつるあつる
たつるあつるあつる

六
今のさつるあつるあつる
あつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

あつるあつる

あつるあつる

あつるあつる

えすやうく
今昔
悟也
悟の
よ
漢
一
白
甘
一

教又上様

常記



之區
田村
加
行
小
出
様

本
上
の
様

上
松
山
三
三
三
三

興津轉居の利(夢想し得べき者)

○一 氣候暖く、寒暖の变化の少き事

○一 空氣善き事

一 轉居のため新事物に接して心を慰むる事

一 眺望廣き事

一 客來のため体温を「高め平及とさす」維持する場合の少き事

一 客來少きため仕事多く出まへべき事

一 淋しさに堪へぬ場合又は所用ある場合には近辺の知

人を招き得る事(これは大磯鎌倉国 府津等に

に比較していふ)

一 天氣の善き日など擔架にて海濱へ出で得べき事

一 東京には擔架を用ゐ難し

一 興津の氣候は家族の健康に利ある事

一 好奇心を満足せしむる事

一 日本、ポトトキス「ト」以外の人あり、~~「ト」~~寄稿を請

求せらるゝ煩少き事

一 若し轉居を思ひ止る時は一種の不快なる感を永久

残すべきの恐ある事

興津東京居住のために受け得べき幾多の利益快樂を、病氣のために受け得べからざるに至りしを以て消極的に轉居の念を強

興津轉居の害(豫想し得べき者)

○一 途中の困難及び其影響の事

一 親戚故舊に離れて不便を感ずる事

あらしめ
たしめ



求せらるゝ煩少き事

一若し轉居を思ひ止る時は一種の不快なる感を永久に残すべきの恐あり事

○東京居住のために受け得べき幾多の利益快樂を、病氣のために受け得べからざるに至りしを以て消極的に轉居の念を強

あらしめたる事

興津轉居の害(豫想し得べき者)

○一途中の困難及び其影響の事

一親戚故舊に離れて不便を感ずる事

○一良醫無き事

一生活上殊に飲食物の不便多き事

一東京を離る遠き事(これは大磯鎌倉國府津

等に比していふ)

一費用を要する事

一日本「ホトキス」の仕事に付き打合に不便なる事

一家族の心を慰むべき事物之しき事(訪問すべき親戚故舊無く、見物すべき上野淺草、見世物、節子堀

等無き事)

一友に離れしため談話上其他見聞上より知識を廣

め愉快を取りに難き事

一書藉に乏しき事

一七年来住み馴れし家を出づるの惜き事

○一轉居後、東京せんと欲するも難き事

再び